

平成29年度入社式について

平成29年4月3日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、以下の通り「平成29年度入社式」を行いましたのでお知らせいたします。

鉄道総研は、平成29年4月3日（月）10時から、国立研究所において、「平成29年度入社式」を行いました。

入社式では、経営幹部立ち会いのもと、鉄道総研理事長 熊谷則道から新入職員 19名（うち女性3名）一人一人に辞令が手渡されました。引き続き、理事長から新入職員へ訓示が行われ、それを受け、新入職員を代表して大久保秀彦（24）から答辞が述べられました。



写真 理事長から辞令を受け取る新入職員

理事長訓示要旨

本日、鉄道総研へ入社されましたこと、おめでとうございます。

19名の皆さんを迎えられることを、私を始め、鉄道総研一同、大変喜んでおります。同時に、皆さんが社会人として踏み出す最初の日となりました。社会に船出する緊張感と新しい環境への意気込みを皆さんの表情から感じることができます。

私たちは今年、これまでとは異なった4月1日を迎えました。ちょうど30年前に一つの鉄道事業が破たんし、新しいJR会社が誕生しました。30年の年月は、人生で仕事に就く区切りの期間です。JR会社は第一の世代から第二の世代の時代に入ったということです。みなさんがJRグループの第二世代の最初に入社した職員と言うこととなります。鉄道総研の次の30年を進取の気性をもって活動されることを望んでいます。

本日、皆さんに期待することを、二点お話します。

第一には、揺るぎのない「チャレンジ精神」を持っていただきたいことです。プロの鉄道人として、新しいテーマに挑戦することが必須です。

鉄道の技術的な問題は営業列車が日々走行する鉄道の現場で見つかることが多いのです。これらの現場で起きていく問題が、研究開発の課題そのものであり、このためには現場で起きていることを良く観察する必要があります。さらに、新しい将来の革新的な鉄道を創造する課題の解決には高度な技術を必要とします。これらの課題に、ひるむことなくチャレンジして下さい。そのために、チャレンジは科学的な知識を吸収し、自由な発想で創造し、実



写真 新入職員に訓辞を述べる熊谷理事長

行する力を必要としますが、それだけではありません。途中、困難に直面することが多くありますが、それらを乗り越え、自分の目標を完遂する強い意志や気概を携えていただきたいのです。

第二には、鉄道の研究開発において社会に「役に立つ」との目標を強く持っていただきたいことです。

JR会社を始めとする鉄道事業者を通して、お客様に役立つ成果を提供することが当研究所の使命です。安全の維持、利便性の向上、環境との調和、低コスト化を目指し、最高の品質の研究開発成果を、鉄道総研から社会に提供することです。そして社会からの信頼を継続して得る努力をすることです。

鉄道総研は平成26年に研究開発の理念として「革新的な技術を創出し、鉄道の発展と豊かな社会の実現に貢献いたします」とのビジョンを設定しました。鉄道のプロフェッショナルとは、鉄道を通じて社会を豊かにするとの強い気概と持っていただきたいと思います。本日からみなさん一人一人が社会に貢献するのだ、ということをお心に銘じてください。

社会では自動運転、人工知能、ビッグデータ解析、高度シミュレーションなどグローバルな技術展開が急速に行われています。この大きな流れを鉄道分野に導入する必要があります。これが鉄道の技術革新をもたらすことになるでしょう。皆さんが等しく持っているフレッシュな感性とバイタリティあふれる行動力に、あらたに「情熱を持つ」ことを加えていただき、鉄道の価値を高めることにまい進してください。私たちとともに、鉄道技術を起点としたイノベーションを社会に起こしていきましょう。

新入職員代表者答辞要旨

本日は、私どものために、このように立派な入社式を開催していただき、誠にありがとうございます。新入職員を代表し、心より御礼を申し上げます。

只今、理事長より心温まる歓迎と激励のお言葉をいただき、深く感銘を受けると同時に、身の引き締まる思いでいっぱいでございます。私どもは、本日より公益財団法人鉄道総合技術研究所の一員として皆様とともに働けることを、誠に光栄に存じております。

本日賜りましたお言葉を胸に刻み、試行錯誤を積み重ね、今後の鉄道のさらなる発展、そして豊かな社会の実現に貢献できるよう、技術革新に挑戦していく所存です。

しかし、私どもは若輩ゆえ、至らぬ点多々あるかと存じます。鉄道総研の名に恥じぬよう日々精進し、一研究者、一社会人として着実に前進して参りたいと考えております。何卒ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、答辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



写真 答辞を述べる新入職員代表